

健康と備えに関する今回の調査をもとに、夫婦間での意識の違いについて既婚者に焦点を当てて考察しました。調査を通じて、お互いに思いやる夫婦像「思いやり夫婦」が浮かびあがりました。この他、大きな病気になった際の心配事として、男女共にお金の問題が非常に大きく、備えの必要性を高く感じていることもわかりました。

調査概要

【調査名】：健康と備えに関する意識調査

【調査方法】：インターネット調査

【調査期間】：2009年9月

【対象者】：首都圏及び関西圏に在住の20代～60代の男女

【サンプル数】：1,000s

	関東圏		関西圏		計
	男性	女性	男性	女性	
20代	50s	50s	50s	50s	200s
30代	50s	50s	50s	50s	200s
40代	50s	50s	50s	50s	200s
50代	50s	50s	50s	50s	200s
60代	50s	50s	50s	50s	200s
計	250s	250s	250s	250s	1000s

【婚姻状況】：

		既婚	未婚	死別・離別	合計
性別	男性	365s	96s	39s	500s
	女性	335s	100s	65s	500s

調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています
 SA:単数回答、MA:複数回答と表記します

自分の健康に不安を感じる妻は約7割、夫の健康は8割以上の妻が不安。

既婚男性において、自身の健康に不安を感じる割合は64.1%、配偶者(妻)の健康に不安を感じる割合は67.6%と、あまり違いはみられませんでした。

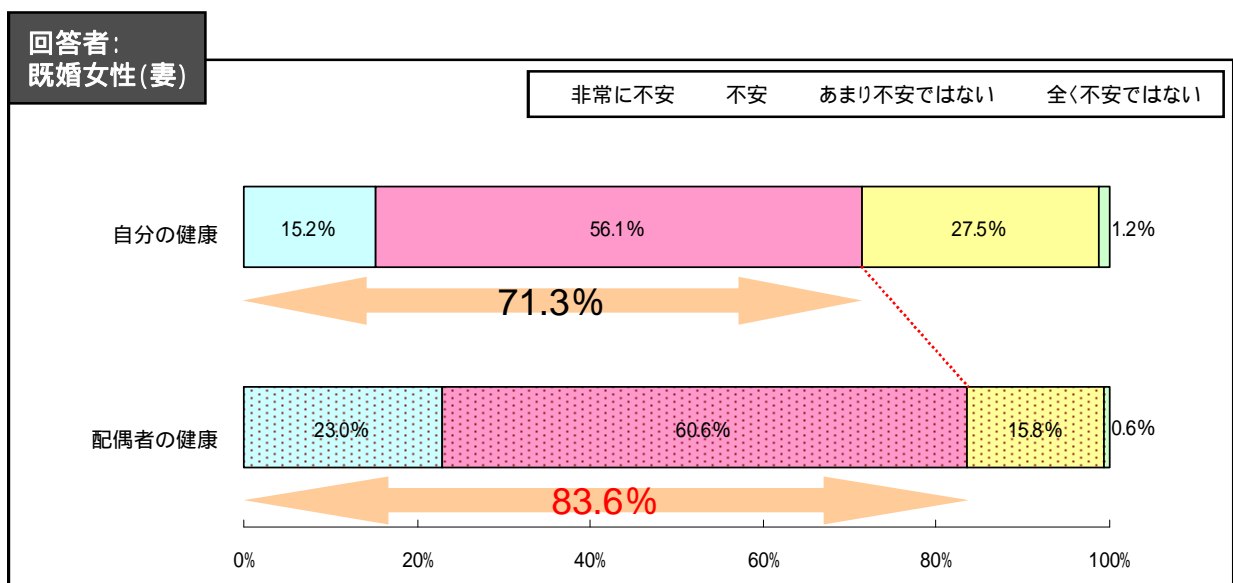
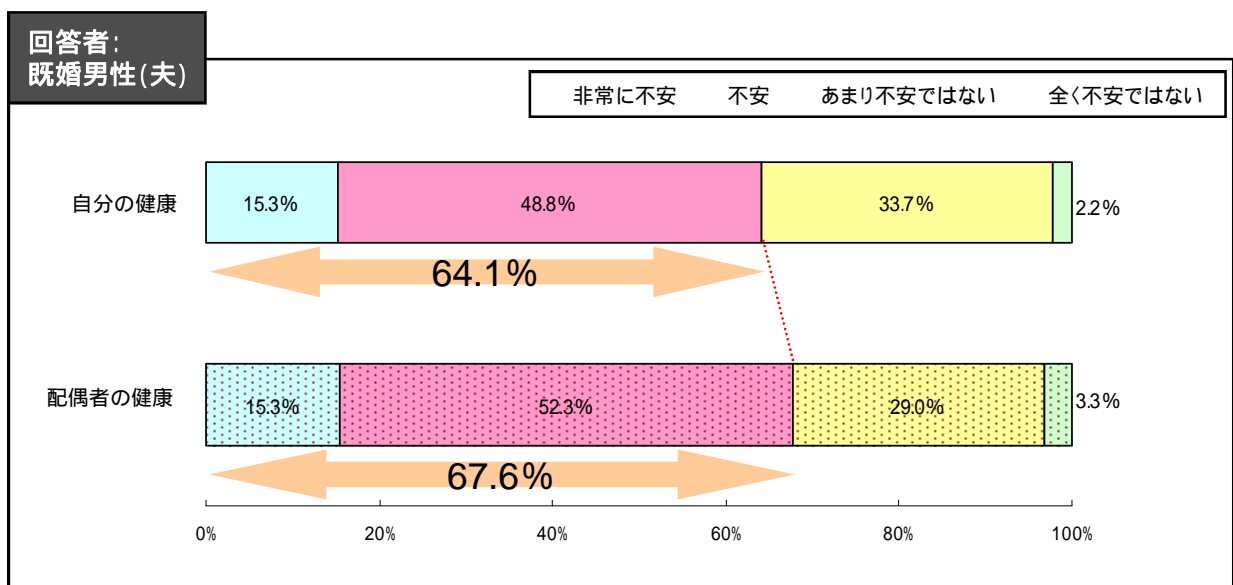
しかし、既婚女性においては、自身の健康に不安を感じる割合は71.3%ながら、配偶者(夫)の健康に不安を感じる割合は83.6%と、自分よりも、夫の健康に対する不安が10ポイント以上上回ることがわかりました。妻は自分よりも夫の健康を心配していることがうかがえます。

【問】ご自身の今後の健康に、不安を感じますか。(SA)

(全体 n=700、男性 n=365、女性 n=335) 既婚者の回答

【問】配偶者(夫・妻)の今後の健康に、不安を感じますか。(SA)

(全体 n=700、男性 n=365、女性 n=335) 既婚者の回答



「入院や手術を伴う病気になったら」、不安の1位は「治療費などの出費」。

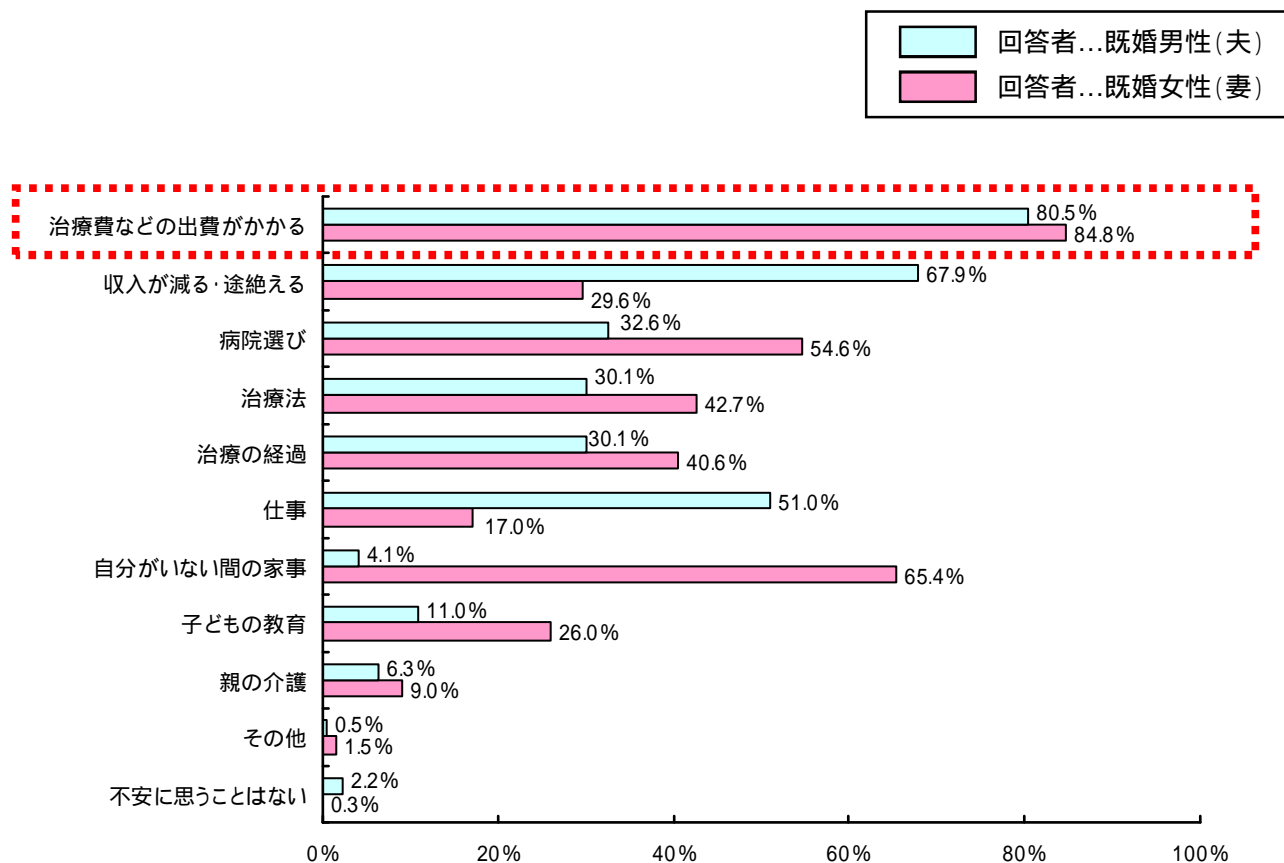
入院や手術を伴う病気になった場合に不安に思うことは、男女共に「治療費などの出費がかかる」が1位に上がりました。

2位は、男性が「収入が減る・途絶える」、女性が「自分がいない間の家事」。3位は男性が「仕事」、女性が「病院選び」となりました。

両者共に、唯一8割を超えている項目が出費であり、費用に対する不安は非常に大きいと見て取れます。

【問】近い将来、あなたが入院や手術を伴う病気になったら、不安に思うことは何ですか。(MA)

(全体 n = 700、男性 n = 365、女性 n = 335) 既婚者の回答



高額な治療、自分が「受けたい」(7.5割)、配偶者に「受けさせたい」(9割)と、受けるよりも受けさせたい。

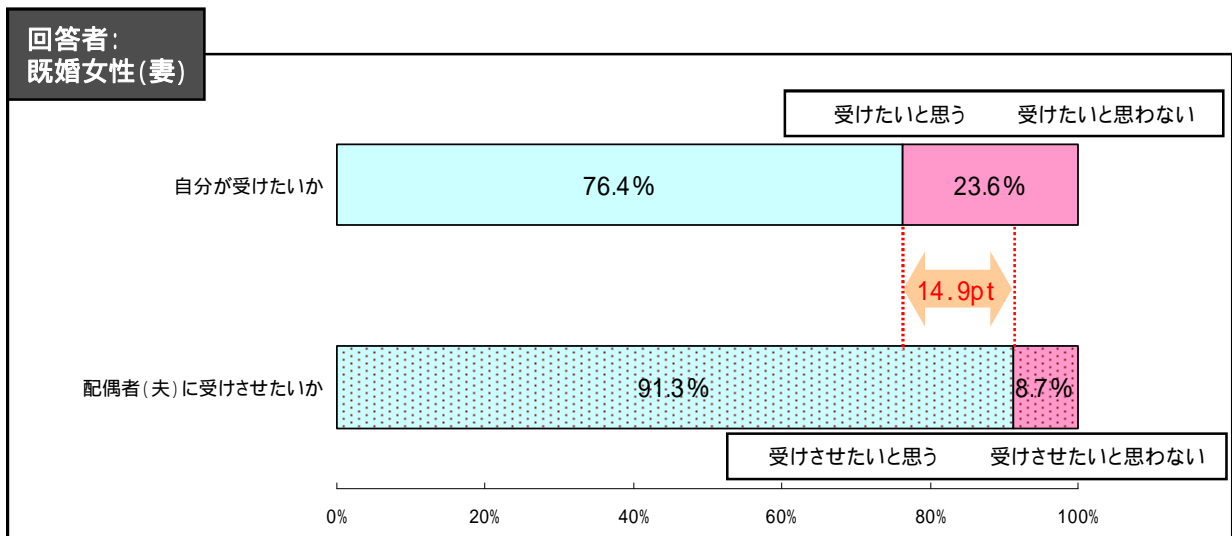
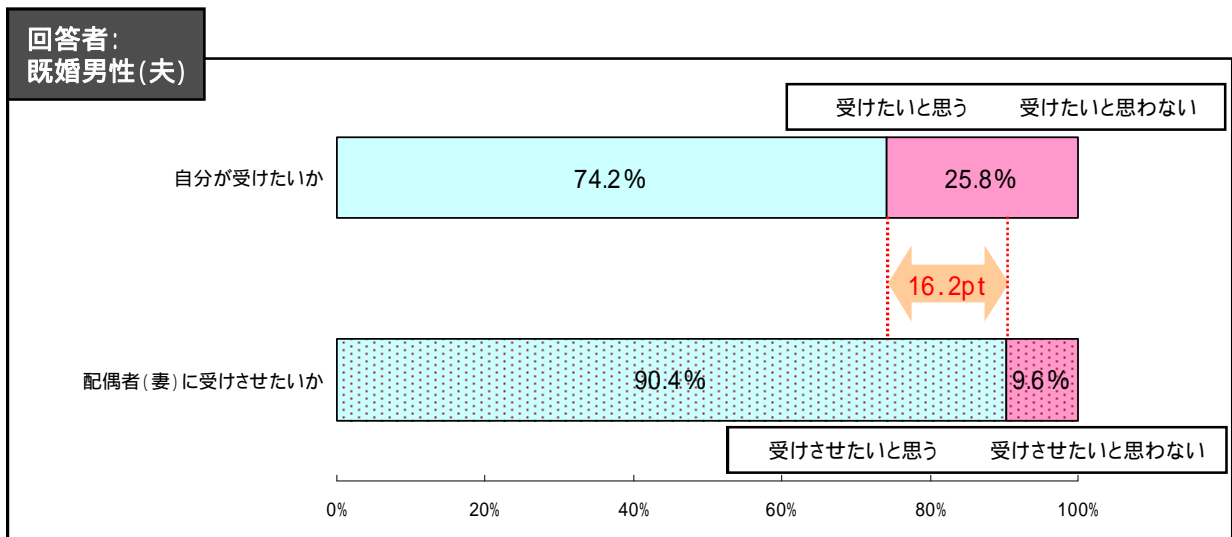
費用が高額だとしても、治る見込みが高い治療法があれば「受けたい」と、男女共に約75%が答えました。また、配偶者に「受けさせたい」か、との設問に対しては、男女共に約90%が「受けさせたい」と答えています。両者とも、「受けたい」よりも「受けさせたい」との答えが約15ポイント上回り、相手への思いやりが現れていると見受けられます。

【問】あなたが、悪性新生物(がん)などの重い病気になった時、費用が“高額”だとしても治る見込みが高い治療法があれば、受けたいと思いますか。(SA)

(全体 n = 700、男性 n = 365、女性 n = 335) 既婚者の回答

【問】配偶者(夫・妻)が、悪性新生物(がん)などの重い病気になった時、費用が“高額”だとしても治る見込みが高い治療法があれば、受けさせたいと思いますか。(SA)

(全体 n = 700、男性 n = 365、女性 n = 335) 既婚者の回答



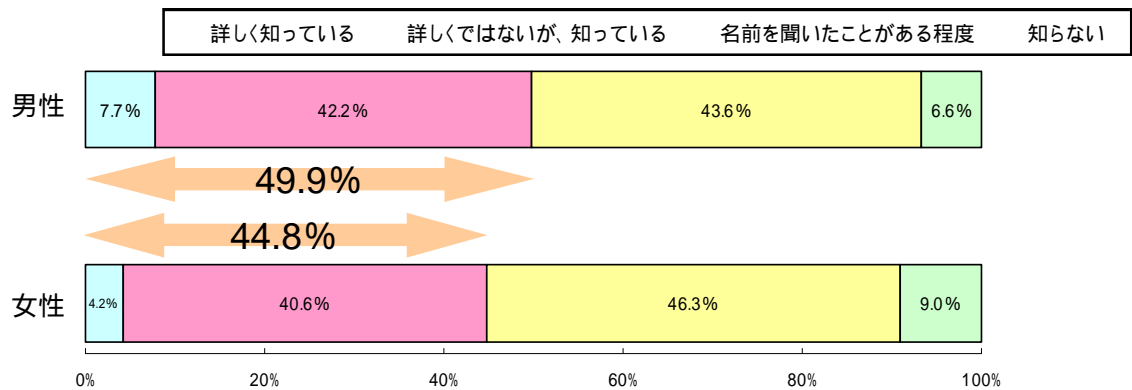
がんなどの重い病気になった時には、9割近くが先進医療を受けたいと答える。

高度な医療技術である「先進医療」の認知度は半数弱ですが、そのうちの88.3%（男性の86.8%、女性の90.0%）である293人が、重い病気になった時に先進医療を「受けたい」と答えました。

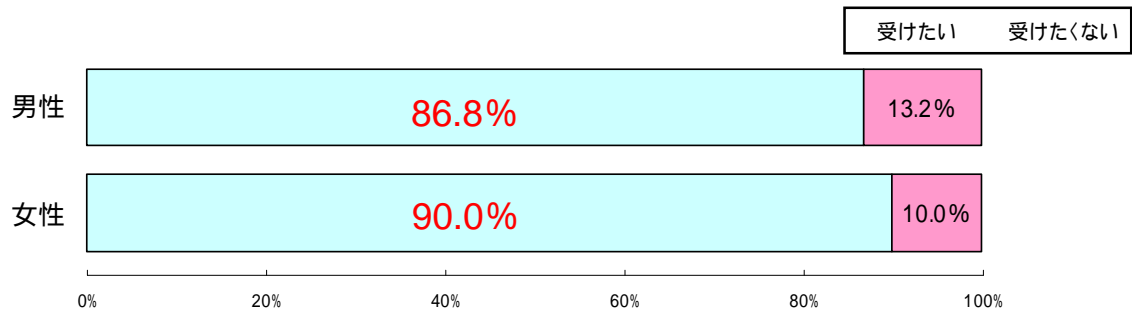
また、先進医療を「受けたい」と答えた人へ、医療保険に加入するなら、先進医療の技術料が保障されるものに参加したいか、聞いたところ、92.5%（男性の92.4%、女性の92.6%）が加入の意向を示しました。

先進医療とは、最新の医療技術として、厚生労働大臣がその種類・医療機関を定めたものを指します。高い治療効果が期待される一方で、先進医療に係る費用は全額自己負担となるため、一般の保険診療の場合と比べて、費用を多く負担することになります。例えば、悪性腫瘍に対する陽子線治療の場合、1件当りの費用の目安は約290万円です。

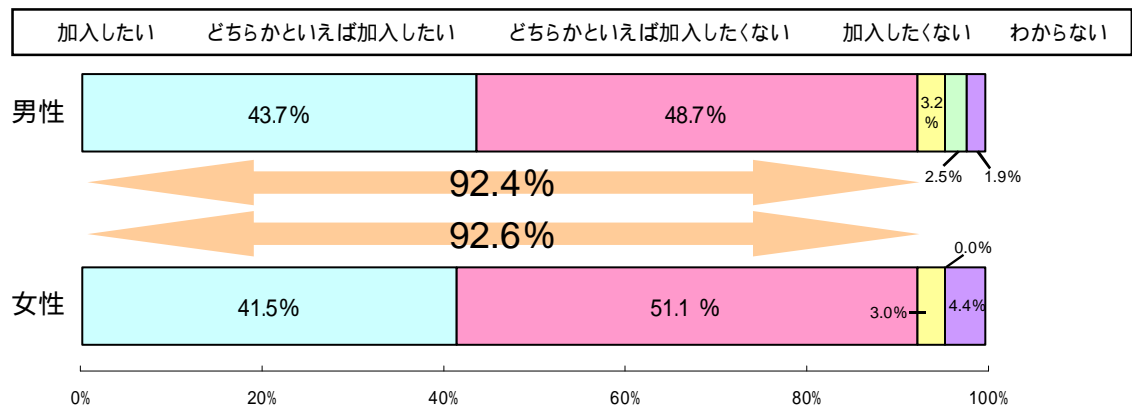
【問】あなたは、「先進医療」とは何かご存知ですか。(SA)
 (全体 n = 700、 男性 n = 365、 女性 n = 335) 既婚者の回答



【問】あなたが、悪性新生物(がん)などの重い病気になった時、先進医療を受けたいですか。(SA)
 (全体 n = 332、 男性 n = 182、 女性 n = 150)
 上の問で「詳しく知っている」、「詳しくではないが、知っている」と回答した既婚男女の回答

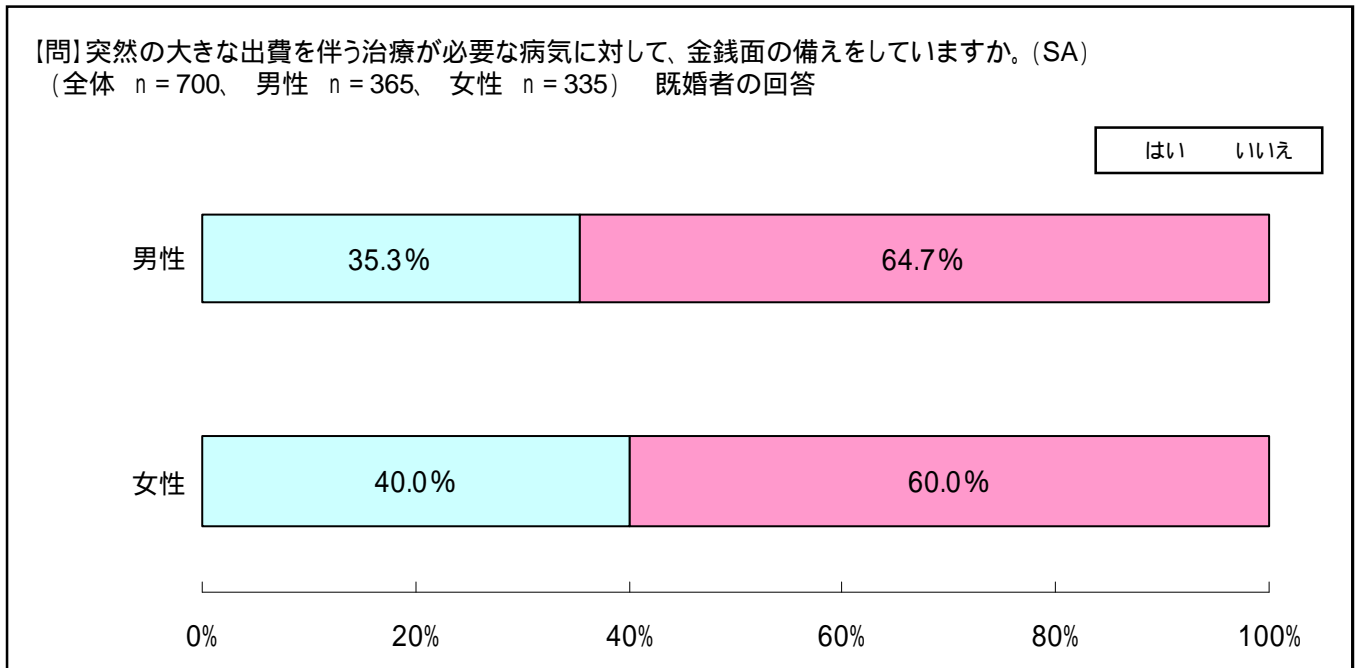


【問】今から医療保険に加入するなら、先進医療の技術料が保障されるものに参加したいと思いますか。(SA)
 (全体 n = 293、 男性 n = 158、 女性 n = 135) 上の問で「受けたい」と回答した既婚男女の回答



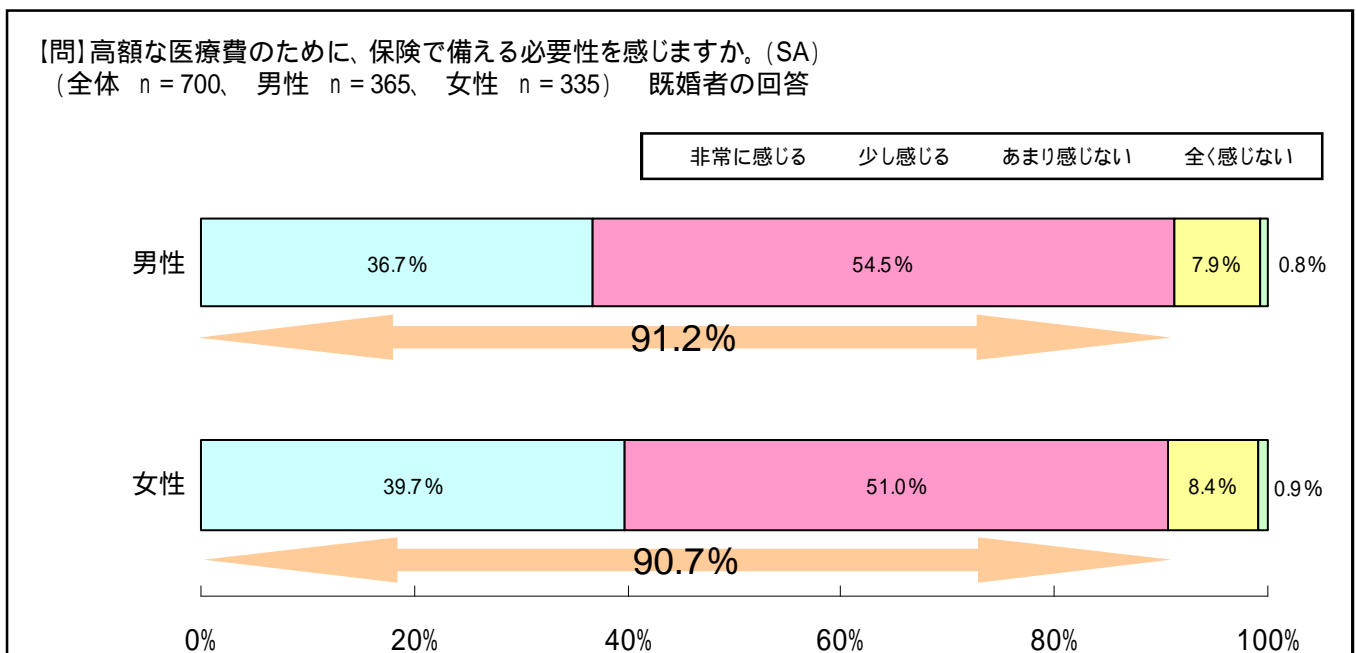
金銭的な備えをしている人は3割台に留まる。

多くの方が治療費などの出費に不安を感じ、高額な治療に対する前向きな意向を持ちながらも、突然の病気に対して金銭面での備えをしている人は263人となり、37.6% (男性の35.3%、女性の40.0%) という結果でした。



高額な医療費のために、保険で備える必要性を9割以上が感じる。

医療費に対する不安が高いだけに、保険での備えの必要性を感じている人は、男女共に約9割と、非常に高い数値となりました。



保険加入、夫の8割以上が“妻のため”、妻の約7割が“夫のため”。

保険加入は「配偶者のため」と答えたのは、夫が83.0%、妻が68.5%でした。特に夫については、「自分のため」との答えが64.1%に対し、「妻のため」との答えが83.0%と、約20ポイント上回りました。ちなみに「子どものため」は、夫婦共に約4割とほぼ同数となりました。

夫婦の互いへの思いやりが現れる中、特に、夫の妻への思いやりが浮き彫りになったと、言えるのではないのでしょうか。

【問】ご自身が加入されている「生命保険」あるいは「医療保険」に加入したのは誰のためですか。(MA)

(全体 n = 599、男性 n = 329、女性 n = 270) 「生命保険」「医療保険」両方もしくはどちらか一方に加入している既婚者の回答

